

理事長祝辞

広島県公立大学法人理事長の土屋です。

令和3年度県立広島大学入学式が挙行される、この良き日にあたり、一言、お祝いを申し上げます。

本日、643名の皆さんを県立広島大学の一員としてお迎えできましたことを、大変嬉しく思います。

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

本来であれば、保護者の皆さまやご来賓の皆さまをこの会場にお招きし、ともに新入生の皆さんのご入学をお祝いしたいところですが、昨今のコロナ禍の情勢に鑑み、本日は、保護者の皆様には、オンライン配信とさせていただきました。その点、ご不便をおかけして申し訳ございませんが、画面の向こうから、お祝いとお慶びのお気持ちをいただけたら、誠にありがたく存じます。

広島県公立大学法人では、この4月から、2つの大学を設置・運営することとなりました。4月に新たに開学した叡啓大学と、建学以来100年の歴史を刻んできた、県立広島大学です。

この歴史ある県立広島大学の門をくぐられた皆さんに、私からお伝えしたいことは、「自ら学び考え、行動するという姿勢」を持って、これから始まる大学生活を送って欲しいということです。

現在、私たちを取り巻く社会では、10年前の東日本大震災や3年前の西日本豪雨災害など、毎年のように起こる自然災害や、1年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の蔓延など、予測の難しい試練や困難が続いています。また、人口減少や高齢化が進み、これまでのような規模の拡大を前提とした社会の維持・発展が危惧される一方で、情報通信技術は長足の進歩を遂げ、今後IoTやAIの技術が更に発展していくと、私たちの生活や働き方自体も大きく変わっていくことになるでしょう。

このような、これまでの成功モデルをそのまま踏襲できず、先を見通すことが難しい時代においては、まさに皆さんが、これから社会を作り上げていく主役になります。皆さんには是非、主体的に様々な課題に向き合い、その本質を見極め、そして、もがきながらもその解決に粘り強く挑んでいく、そういうマインドと行動力、そしてその基礎となる様々な知識とそれを活用していく力を、この県立広島大学で身に付けていただきたいと願っています。

私は、昨年10月まで、2年8か月の間、南米のペルー共和国に、日本国全権大使として赴任しておりました。皆さんは、マチュ・ピチュの遺跡やナスカの地上絵でペルーをご存じかと思いますが、文明的にはきわめて古い歴史を持ちながらも、ペルー共和国としては、1821年に独立を果たした若い国です。ペルーの人々は、インカ文明を築いた先住民族を始め、ヨーロッパ系、アフリカ系、アジア系など、複雑で多様な人種で構成されており、120年前に我が国から渡っていった人たちの子孫である日系ペルー人も数多くおられます。

まだまだ貧富の差が激しく、貧困に悩む人たちも多くおられます。また、社会インフラが不十分な地域も多く、日本にいと、なかなか想像しづらい生活環境のところも多々あ

りますが、人々はみな明るく、たくましく生きています。

世界には様々なところがあります。現地に行かなければ実感できないようなことも多々あります。コロナ禍の影響で海外旅行もままならない昨今ですが、皆さんには是非、世界の情勢に関心を持っていただき、様々な情報を得て、時には想像力も働かせて、いま私たちが生きているこの地域が、社会が、世界に繋がっているんだということを感じてほしいと思います。国連が掲げるSDGsも意識して、よりよい明日を創っていくため、この県立広島大学で、将来に羽ばたく力を蓄えてほしいと切に願います。

最後に、私達、広島県公立大学法人は、その教育力と研究力を以て、皆さんの積極的な学びと学生生活を応援することをお約束して祝辞を閉じたいと思います。皆さんにとって、本日が、素晴らしい未来を拓く、その一步を踏み出す記念すべき日になることをお祈りしております。

皆さん、ご入学、おめでとうございます。

令和3年4月5日

広島県公立大学法人 理事長 土屋 定之